

【2020年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床医学系/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
高次脳機能学(作業療法学科)		必修(作)	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
小沢 健一	C305	k-ozawa	水曜 9:00~10:40		
授業の目的・概要	ヒトは「考え・行動し・感じる」これらの源は脳であり神経系のなす事象である。医療福祉に携わる者としてその知識の基本を身につけておかなければならない。ここでは脳についてのさまざまな基礎を学習し、「脳はどんな働きをしているの?」「こころとは?」など、ヒトの高次脳機能(脳の構造・働き)を理解することを目的とする。この講義は、同時双方向型授業等の遠隔授業で行っていく。				
学習上の助言	神経系の解剖学と生理学を理解しておくこと。				
教科書	高次脳機能障害学 第2版 /著:石合純夫 /医歯薬出版 /2012				
参考書	知・情・意の神経心理学/著:山鳥重/青灯社/2008 神経心理学コレクションシリーズ/医学書院				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	中枢神経系の構造を理解し説明できる。			OT(2)	
②	脳地図とそれぞれの名称、働きを理解し説明できる。			OT(2)	
③	各種感覚モダリティの処理過程を理解し説明できる。			OT(2)	
④	一般的な高次脳機能障害を説明できる。			OT(2)	
⑤	代表的な検査を説明できる。			OT(2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	高次脳機能学と神経心理学について学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	事前に教科書 p1-10 で予習し、授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。	2	
2	中枢神経系の構造を学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて中枢神経系の構造を復習する。	2	
3	前頭葉の構造と働きを学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて前頭葉の構造と働きを復習する。	2	
4	側頭葉の構造と働きを学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて側頭葉の構造と働きを復習する。	2	
5	頭頂葉の構造と働きを学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて頭頂葉の構造と働きを復習する。	2	
6	後頭葉の構造と働きを学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて後頭葉の構造と働きを復習する。	2	
7	言語機能を学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて言語機能について復習をする。	2	
8	左右の脳半球間連絡を学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて左右の脳半球間連絡について復習をする。	2	
9	視覚や聴覚情報の処理を学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて視覚や聴覚情報の処理について復習をする。	2	
10	体性感覚情報の処理を学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて体性感覚情報の処理について復習をする。	2	
11	記憶や学習のメカニズムを学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて記憶や学習のメカニズムについて復習をする。	2	
12	電気生理学と画像診断を学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて電気生理学と画像診断について復習をする。	2	
13	神経心理学知見のリハビリテーションへの応用を学ぶ。 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いて神経心理学知見のリハビリテーションへの応用について復習をする。	2	
14	さまざまな高次脳機能障害を学ぶ。(失行・失認・失語) 意見交換の機会:授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いてさまざまな高次脳機能障害について復習をする。	2	

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床医学系/旧カリキュラム】

15	さまざまな高次脳機能障害を学ぶ。(注意・記憶・遂行機能) 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。授業資料を用いてさまざまな高次脳機能障害について復習をする。	2
試	定期試験 達成度評価・評価ポイントを参照			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	90	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	学期末の定期試験(筆記試験)を実施して評価する。 問題(回答)形式は、記述・穴埋め・選択式である。	試験は各自に返却し、解説する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

備考

担当教員：◎小沢 健一

教員の実務経験：作業療法士として25年以上の臨床経験。

実践的授業の内容：臨床における最新情報とともに、その専門性を生かして学生に教授する。

双方向型授業：Microsoft Teams を使用して行います。

授業時には課題ダウンロードや動画視聴などがありますので、通信容量制限がある場合には通信量に十分注意してください。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢により再度シラバスの変更がありうる可能性があります。

解剖学、生理学はもちろんのこと、作業療法評価学や臨床医学の各分野をしっかり復習しておくこと。

「脳・こころ」についてのさまざまな知識に、興味を持っておくことが望ましい。